

**ムーンショット型研究開発制度に係る戦略推進会議（第8回）  
議事概要（ポイント）**

1. 日 時： 令和5年3月24日（金）10：00～12：00
2. 場 所： 中央合同庁舎第8号館6階623会議室（ウェブ会議）
3. 議 題： 目標1、2、3、6、7、8、9における進捗・自己評価の報告について

**構成員からの主なコメント**

**全体**

- 前回に比べて、国際連携に関する説明が含まれておりよかったが、ワークショップレベルではなく、研究の中に海外の研究者が入り込んで共同で研究を進めているような具体例をどんどん出してほしい。【須藤委員、梶原委員、江田委員】
- 各国がミッション指向型プログラムを立ち上げてきており、MS 開始当初と比べ、他国との政策上の違いが見えにくくなっていると感じている。ミッション指向がある＝インパクトが高いということが明示的に出てくることが求められていると思う。【上山議員】
- 各目標で国際アドバイザーボードを設置しているが、海外からアドバイスを貰うだけではなく、海外に対してMSはハイリスクだがインパクトの高いところを目指しているということを伝えていくことが必要ではないか。研究の評価を受ける場だけでは物足りない。【上山議員】
- MS という従来にはなかったプログラムを行うことによって、研究のメソドロジー、研究の場がどのように変わってきているかフィードバックが欲しい。【上山議員】

**目標1**

- 人間の能力の拡張というのはユニークだ。少子高齢化が進む日本独自の考えかもしれないので、是非海外での実証実験を通して社会受容性を見てほしい。先に行くことも大切だが、グローバルに伝えるように。【江田委員】
- 若い人たちが興味を持ってくれるテーマと思う。教育的な意味でもサマースクールのようなことを是非進めてほしい。【福井委員】
- 手術不要BMIには医療関係者にももっと入り込んでいただきたい。【福井委員】
- 分身ロボットカフェの試みが進むとダイバーシティ&インクルージョンの社会が実現できると思う。国際的にも広がることで、社会貢献として世界ともつながっていくことを期待する。総合知的な考え方を含めどう展開していくかを考えて頂きたい。【波多野委員】

## 目標 2

- 未病の概念そのものが人によって異なると思う。解決すべき課題には同意するが、健康～発症に至るプロセスをデータで実証することが出来れば素晴らしい。【福井委員】
- ヒトを対象としている研究であるので、ジェンダード・イノベーションと言われる性による差、人種による差も重要と思うので考慮していただきたい。【梶原委員】

## 目標 3

- SIP 第 3 期でもロボット関係のプロジェクトが始まることになっているので、是非連携を考慮していきたい。【須藤委員】
- 知財の規約改訂が必要などとあったが、改訂しないと研究活動に影響が出るようであれば改善して運営を円滑にしてほしい。知財周りは MS 全体に共通ではないかと思う。横展開して改善して進めてほしい。【梶原委員】
- 目標 1 と 3 の連携を一層進めてほしい。【梶原委員】

## 目標 6

- サマースクールは良いと思った。若手育成として進めるのは象徴的に思え、是非進めて頂きたい。全国から参加が重要と思うが多様な地域の人に参加できるとよい。アーカイブも検討してほしい。【梶原委員】
- 7つのハードウェアの候補があるが、最初の区切り（前半 5 年間）でどう判断するかを伺いたい。【波多野委員】
- 通信ネットワークはまさに重要で人材も不足している。5 年後、2050 年の実現に向けてのポートフォリオ、知財戦略をどう考えているか。【波多野委員】

## 目標 8

- 気象制御研究という概念は、気候変動の中で起こっていると思うが、その中で目標 8 の位置づけをはっきり示してほしい。【福井委員】
- 台風制御はムーンショットとして分かりやすいが、線状降水帯など局所的な気象現象を実際に制御できるイメージがつかない。実現可能性の見通しは。【須藤委員】
- 気象制御は壮大、尊大な感じもある。異常気象の緩和、といってもらった方が受け入れやすいと思う。社会に受け入れられるような取り組みをお願いしたい。【梶原委員】

## 目標 9

- 解決すべき課題のスライド中に「指標の提示」とあるが、何を指標にするかによって方向性が異なってくると思う。目指すものは、どういう指標であらわされるかを考える必要がある。【福井委員】

以上